

大 円 寺 遺 跡

第 9 次 調 査

2013・3

滋賀県長浜市教育委員会

序 文

長浜市は滋賀県の北部に位置し、西に琵琶湖、東に伊吹山を望む風光明媚な都市です。2度の合併を経験した新しい長浜市内には名勝史跡竹生島をはじめ史跡小谷城・史跡古保利古墳群など数多くの文化財が存在します。

今回報告いたします大円寺遺跡は、長浜市高月町に位置する集落跡および寺院跡とされている遺跡です。長浜市内には、この大円寺遺跡のような遺跡が800件ほど所在しています。

埋蔵文化財は、過去の人々が自然と戦い汗水流し必死に生きた証拠で、文字・記録には残らない個性豊かな歴史を語り、今後の我々の文化的向上に明かりを灯すものです。

市内の多くの遺跡は、古より人々の生きた証しではありますが、発掘調査によって状況が分かったのは一握りで、多くは地面の下に埋もれ続けています。たとえ、一握りの成果であってもそれを積み重ねることにより、多くの成果が得られると考え日々業務に励んでおります。

今回の調査は、以前の調査に引き続き、多数の柱穴や土器が出土し、当時の集落跡を彷彿させる生活の痕跡を確認し、成果を得ることができました。

今回刊行いたしました報告書が地域の歴史を学ぶ資料となるとともに、地域の文化財をより深く理解していくうえで御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、調査の実施並びに報告書の作成にあたりまして、御理解と御協力をいただきました土地所有者、地元の方々、並びに関係機関に対しまして厚くお礼申しあげます。

平成 25 年 3 月

長浜市教育委員会
教育長 北川 貢造

例 言

1. 本書は、平成 24 年度に長浜市教育委員会が実施した、防火水槽建築工事に伴う、長浜市高月町高月字宮市 6 番 1、7 に所在する大円寺遺跡発掘調査報告書である。
2. 本調査は、長浜市教育委員会が長浜市長（担当課：高月支所地域振興課）から依頼を受けて実施したものである。
3. 発掘調査並びに整理調査は牛谷が担当した。
4. 本書で使用した方位は磁北、高さは東京湾平均海面高度、遺構埋土等の土色については標準土色帖に基づいている。
5. 本書の執筆および編集、遺物写真撮影は牛谷が行った。
6. 遺物や写真・図面については長浜市教育委員会が保管している。
7. 本調査の実施にあたり、地元の方々並びに関係機関のご理解とご協力をいただいた。謝意を申し上げます。

目 次

序・例言・目次

第1章 調査の経過	1
第1節 調査にいたる経緯	1
第2節 発掘作業の経過	2
第3節 整理等作業の経過	2
第2章 遺跡の位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の方法と成果	5
第1節 調査の方法	5
第2節 層序	6
第3節 調査の成果	7
(1) 遺構	7
(2) 遺物	13
第4章 総括	15

挿図目次

図1 調査位置図	1
図2 試掘・本発掘調査位置	2
図3 試掘壁面柱状図	2
図4 長浜市位置図	3
図5 長浜市周辺の地形	3
図6 周辺の遺跡	4
図7 本発掘調査位置	5
図8 北壁面土層堆積状況	6
図9 南壁面土層堆積状況	6
図10 平面図	7
図11 SD1平面・断面図	8
図12 SD2平面・断面図	8
図13 SD3平面・断面図	8
図14 SD4平面・断面図	8
図15 SD5平面・断面図	8
図16 SD6平面・断面図	8

図 17	S K 1 平面・断面図	9
図 18	S K 2 平面・断面図	9
図 19	S K 3 平面・断面図	9
図 20	S K 4 平面・断面図	9
図 21	S K 5 平面・断面図	10
図 22	S K 6 平面・断面図	10
図 23	S K 7 平面・断面図	10
図 24	S K 8 平面・断面図	10
図 25	S P 断面図 (S P 1 ～ S P 24)	11
図 26	S P 断面図 (S P 25 ～ S P 34)	12
図 27	出土遺物実測図	13
図 28	周辺調査状況図	15

表目次

表 1	土色・土質一覧表	6
表 2	S P 一覧表	12
表 3	遺物観察表	14

図版目次

図版 1	調査前状況 (西から)	図版 7	S K 6 土層断面 (東から)
	重機掘削状況 (西から)		S K 7 土層断面 (西から)
	作業風景 (北西から)		S K 8 土層断面 (北西から)
図版 2	遺構検出状況 (北西から)	図版 8	出土遺物 1
	遺構完掘状況 (南から)		出土遺物 2
	遺構完掘状況 (西から)		出土遺物 3
図版 3	遺構完掘状況 (北から)		出土遺物 4
	南壁土層堆積状況 (北から)		出土遺物 5
	S D 1 土層断面 (西から)		出土遺物 6
図版 4	S D 2 土層断面 (西から)		
	S D 3 土層断面 (東から)		
	S D 5 土層断面 (南東から)		
図版 5	S D 6 土層断面 (南から)		
	S K 1 土層断面 (北東から)		
	S K 2 土層断面 (北東から)		
図版 6	S K 3 土層断面 (南東から)		
	S K 4 土層断面 (南西から)		
	S K 5 土層断面 (南から)		

第1章 調査の経過

第1節 調査にいたる経緯

本報告は、防火水槽設置工事に伴う本発掘調査である。

本件は、平成23年度に実施した土木工事の照会により事業が判明し、協議を行っていた案件である。

本件に係る通知は、平成24年9月26日に長浜市より提出があり、平成24年11月16日に大円寺遺跡第9次調査として調査対象面積510㎡に対して1か所（2.9㎡）の試掘トレンチを設定し、試掘調査を実施した。調査の結果、遺構を確認した。

試掘調査の結果をもとに、長浜市とその保存について協議を行った結果、工事対象面積510㎡の内35㎡について本発掘調査を実施することとなった。

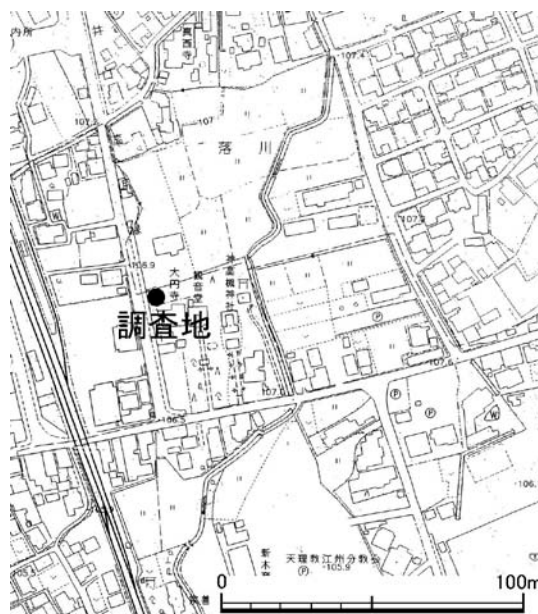


図1 調査位置図

調査の体制は下記のとおりである。

平成24年度

長浜市教育委員会

	教育長	北川 貢造
	教育部長	
	兼教育総務課長	中井 正彦
文化財保護センター	所 長	森口 訓男
	副参事	黒坂 秀樹
	主 査	牛谷 好伸（調査担当）
	主 査	沢村 治郎（調整担当）

調査地周辺は平成元年に第1次調査が実施された他、今回の調査で9次の調査が実施され、数多くの遺構が検出されている。

大円寺遺跡第9次調査の試掘調査は、平成24年11月16日に実施した。試掘調査においては、調査地を1か所（2.9㎡）設定し、調査地内から遺構を2基確認した。遺構を確認した深さは、現況地表面から0.8m下である。

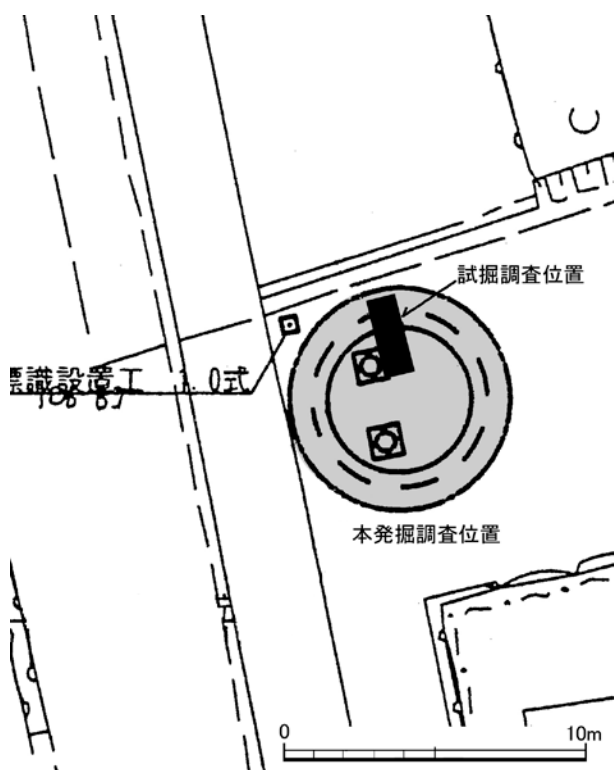


図2 試掘・本発掘調査位置

0～0.10m	造成土
0.10m～0.40m	5Y3/2 オリーブ黒色極細粒砂
0.40m～0.62m	2. 5Y3/1 黒褐色粗粒シルト
0.62m～0.80m	10YR3/1 黒褐色 粗粒砂混粗粒シルト
0.80m～	7. 5Y4/2 灰オリーブ色 中粒砂混粗粒シルト（地山）

図3 試掘壁面柱状図

第2節 発掘作業の経過

現地調査は、平成24年12月5日から平成25年1月10日にかけて実施した。

作業経過は、12月5日にアスファルトカットを行い、12月11日から重機による遺構面直上までの掘削、人力による遺構検出作業、遺構の半截、遺構完掘の順で行った。図面作成などの測量および記録写真撮影は工程ごとに行った。

第3節 整理等作業の経過

整理調査は、現地調査終了後の平成24年1月11日から平成25年3月までの期間中に実施した。

出土した遺物は、遺物台帳に記入した後、報告書に掲載するものを選別した。遺物の選別方法は、出土した遺物の内、遺跡の性格や時期を示し得るもので実測可能なものを選んだ。

選別した遺物については、実測図、遺物観察表を作成した後、デジタルトレース、写真撮影を行った。現地で測量した図面類はデジタルトレースをして、編集を行った。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

滋賀県の北東部に位置する長浜市は、北東部に伊吹山地が広がる。この山地を源流に姉川、草野川、高時川、余呉川などが南流し、湖北平野を築いている。低地と山地の境界は断層崖となり、柳ヶ瀬断層や関ヶ原断層など大規模活断層に一致する。

南東部の平野には孤立山塊が分布し、関ヶ原低地帯の西部にあたっている。

気候は瀬戸内海式気候に属しているが、最低気温が低くなるといった日本海側の気候と同じ特色を持っている。

地質は古生層で、約2～3億年前の海底に堆積した硬い地層からできており、特に平野部では砂岩系や粘板岩が分布している。

市域は東西25km、南北40km、総面積は680.79km²（琵琶湖を含む）で、人口は123,824人（平成25年1月1日現在）である。

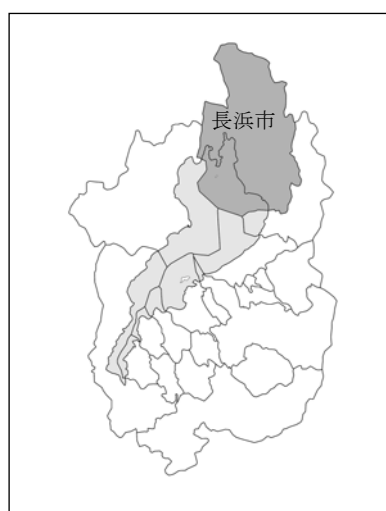


図4 長浜市位置図



図5 長浜市周辺の地形

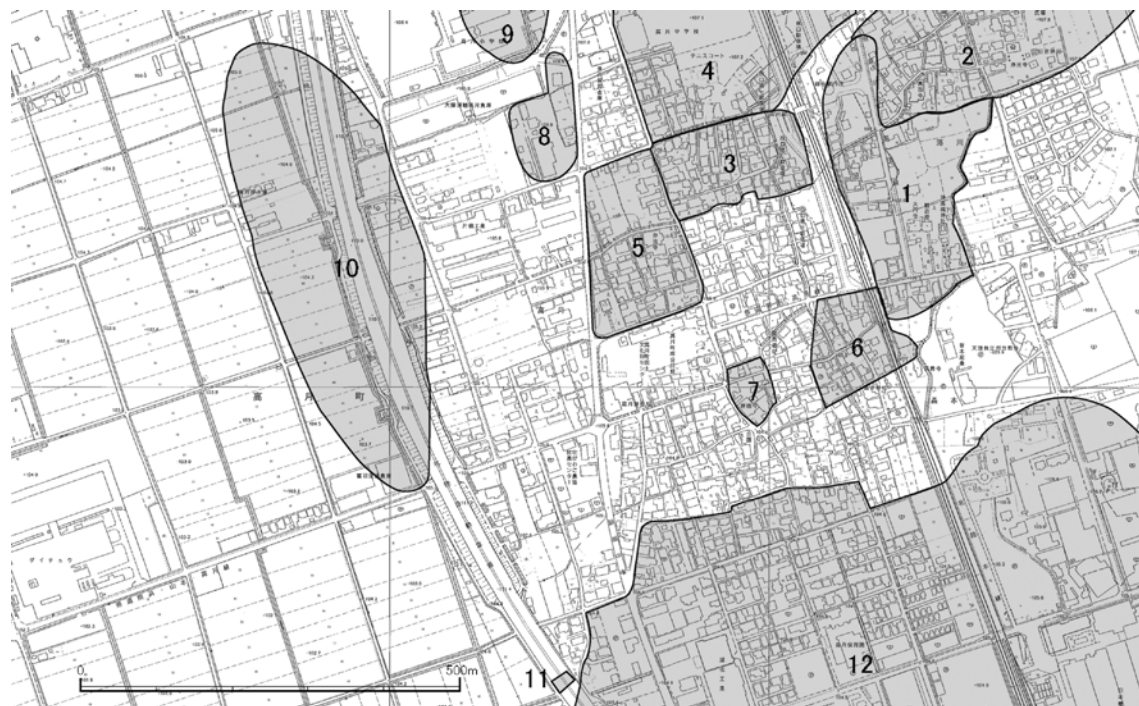
第2節 歴史的環境

大円寺遺跡は高時川右岸に位置し、高時川によって形成された沖積・扇状地に位置する。当遺跡は、長浜市高月町高月・落川・森本地先に広がる集落跡・寺院跡と周知されている。遺跡の名称は高月町高月に鎮座する神高槻神社と同じ境内に所在する滋眼山大円（圓）寺より名付けられている。

大円寺遺跡は、過去に数次の調査が実施され、数多くの掘立柱建物跡や鋳造に関する遺物が出土している。平成元年に実施した1次調査では古墳時代後期の井戸、平安時代の井戸、近世の埋め甕、近世の木桶、ピット、溝状遺構を検出している。2次調査は平成2年に実施し、古墳時代後期から平安時代後期の遺構・遺物が発見された。遺構は、古墳時代後期の堅穴建物、溝状遺構、奈良時代の堅穴建物、平安時代の井戸、土坑、溝状遺構、掘立柱建物、ピットを確認した。出土遺物には平安時代の鉄生産関係遺物と瓦があり、周辺での寺院あるいは官衙関係遺構が存在することが推測される。

大円寺遺跡の周辺には多くの遺跡が広がっており、落川遺跡からは古墳時代後期の堅穴状遺構、土坑、奈良～平安時代の掘立柱建物、溝、土坑、柱穴を検出し、高月北遺跡からは古墳時代後期より白鳳期にかけての堅穴建物、水田跡、奈良時代～平安時代末にかけての掘立柱建物、溝を検出して、7世紀後半の堅穴建物より鉄滓が出土している。高月南遺跡からは方形周溝墓・円墳や堅穴建物、掘立柱建物等を数多く検出している。高月西遺跡からは時期不明の掘立柱建物や溝を検出した。その他、狐塚大塚古墳群という古墳群も存在する。

また、近隣には城跡・館跡として高月城遺跡・森本館遺跡・大市遺跡が立地し、寺院跡・神社跡として高月円通寺遺跡・森本観音堂遺跡・栗原遺跡が立地する。



1	大円寺遺跡	5	高月城遺跡	9	高月西遺跡
2	落川遺跡	6	森本館遺跡	10	狐塚大塚古墳群
3	高月円通寺遺跡	7	森本観音堂遺跡	11	栗原遺跡
4	高月北遺跡	8	大市遺跡	12	高月南遺跡

図6 周辺の遺跡

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

調査は、平成24年12月5日から開始し、平成25年1月11日まで実施した。面積35㎡の円形の調査地である。

現地はアスファルト敷きであったため、アスファルトカットを行い、その後重機を用いて遺構面まで掘削を行った。

調査地の平面形態が円形と言うこともあり、重機で荒掘りをしたのち、人力で整形を行った。

基本的な調査方法は、柱穴は半截、土坑については原則四分法を用いて断面実測、写真撮影を行った後、遺構完掘を行った。

遺物の取り上げ方法については、遺構、層位ごとに取り上げを行った。

写真撮影は、遺構検出、遺構断面、完掘状況の時点で35mmの白黒フィルム、リバーサルフィルムを用いて撮影した。

なお、遺構等埋土の土色・土質については表1を参照されたい。



図7 本発掘調査位置

第2節 層序

現況は、駐車場として利用されている場所で、調査地は西側を南北に走る道路と同じ高さである。

調査地の土層堆積は、1層目が造成土で標高 106.800m～106.600m、2層目が 5Y3/2 オリーブ黒色極細粒砂で標高 106.600m～106.300m、3層目が 2.5Y3/1 黒褐色粗粒シルトで標高 106.300m～106.150m、4層目が 10YR3/1 黒褐色細粒砂混粗粒シルトで標高 106.150m～106.000m、5層目が 7.5Y4/2 灰オリーブ色中粒砂混粗粒シルトで標高 106.000m以下（地山）である。

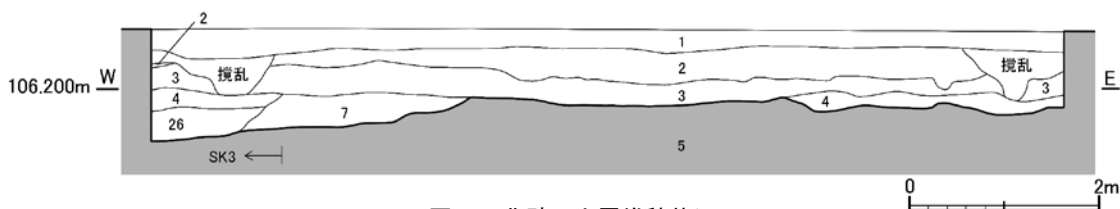


図8 北壁面土層堆積状況

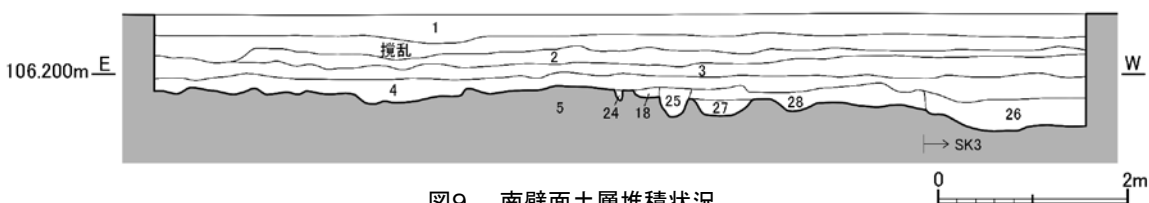


図9 南壁面土層堆積状況

表1 土色・土質一覧表

番号	土色帖記号	土色	土質	備考
1			造成土	
2	5Y3/2	オリーブ黒色	極細粒砂	
3	2.5Y3/1	黒褐色	粗粒シルト	
4	10YR3/1	黒褐色	粗粒砂混粗粒シルト	
5	7.5Y4/2	灰オリーブ色	中粒砂混粗粒シルト	
6	2.5Y4/1	黄灰色	細礫混粗粒シルト	
7	5Y3/2	オリーブ黒色	中粒砂混粗粒シルト	炭化物混じる
8	5Y3/1	オリーブ黒色	粗粒シルト	炭化物混じる
9	5Y4/1	灰色	粗粒シルト	
10	10Y3/2	オリーブ黒色	細粒砂	
11	2.5Y3/1	黒褐色	中粒砂混粗粒シルト	
12	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	中粒砂混極細粒砂	
13	7.5YR3/1	黒褐色	粗粒砂混粗粒シルト	
14	7.5Y3/1	オリーブ黒色	粗粒シルト	
15	10YR3/1	黒褐色	中粒砂混粗粒シルト	
16	10YR3/1	黒褐色	粗粒シルト	
17	10Y3/1	オリーブ黒色	細粒砂混粗粒シルト	中礫・炭化物混じる
18	2.5Y3/2	黒褐色	粗粒シルト	
19	2.5Y3/1	黒褐色	細粒砂混粗粒シルト	
20	10Y4/2	オリーブ灰色	細粒シルト	
21	5Y3/1	オリーブ黒色	細礫混粗粒シルト	
22	2.5Y3/2	暗オリーブ褐色	粗粒砂混粗粒シルト	
23	5Y3/2	オリーブ黒色	粗粒シルト	
24	2.5Y4/1	黄灰色	粗粒シルト	
25	5Y3/1	オリーブ黒色	細粒砂混粗粒シルト	
26	2.5Y3/1	黒褐色	粗粒シルト	炭化物混じる
27	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	細礫混粗粒シルト	

第3節 調査の成果

(1) 遺構

検出した遺構は、溝（SD）・土坑（SK）・柱穴（SP）である。

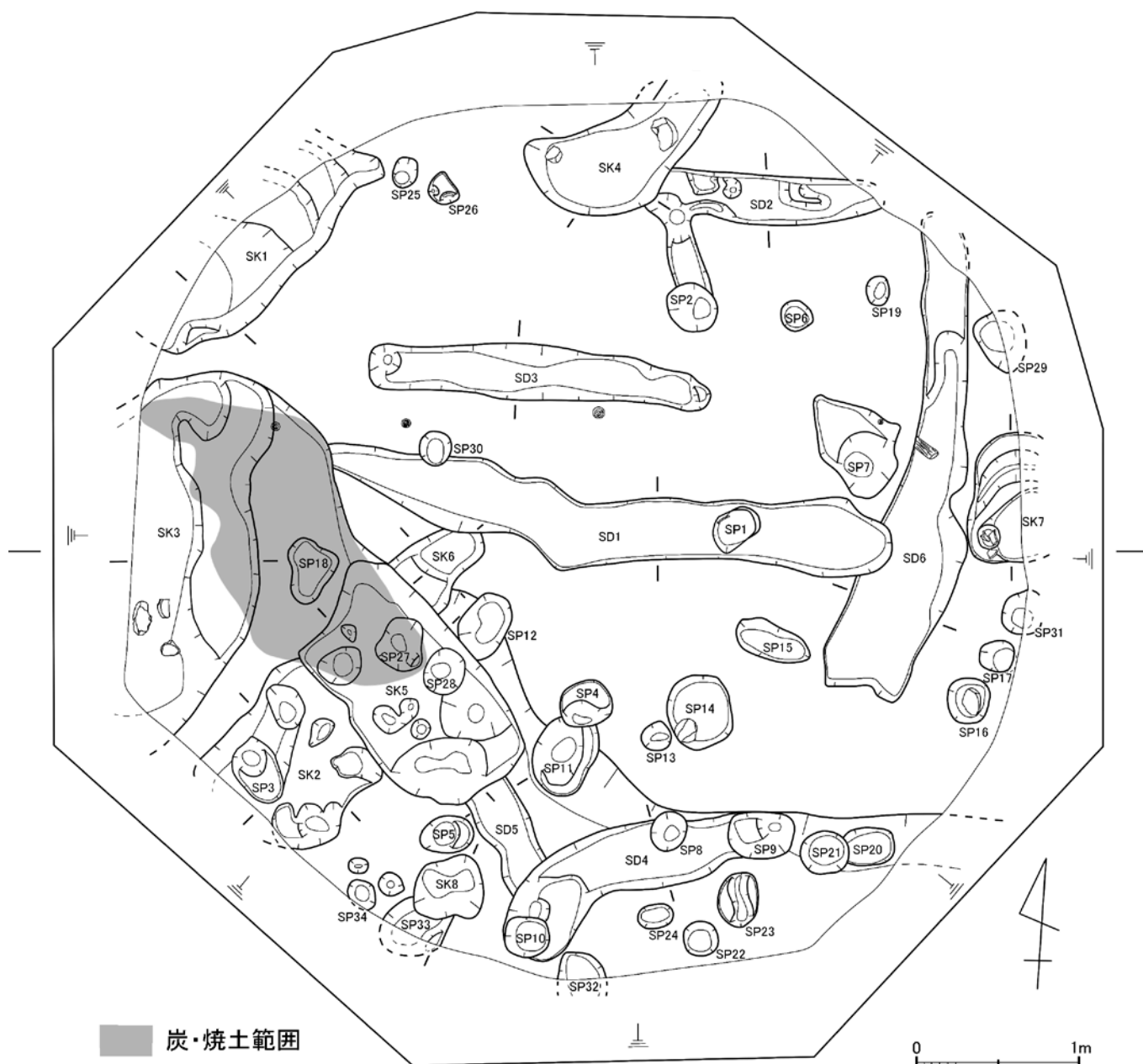


図10 平面図(S=1/40)

SD 1

調査地の中央に位置し、東西方向に延びる溝である。検出した溝の総延長は 3.54m を測り、幅 0.38m、深さ 0.04m を測る。埋土は単層で、底部は平たく SD 6 を切る。遺物は灰釉陶器や土師器・須恵器が出土している。

SD 2

調査地の北側に位置し、L 字型に曲がる溝である。検出した溝の総延長は 1.4m を測り、幅 0.30m、深さ 0.1m を測る。埋土は単層で、底部に高低差があり SK 4・SP 2 に切られる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

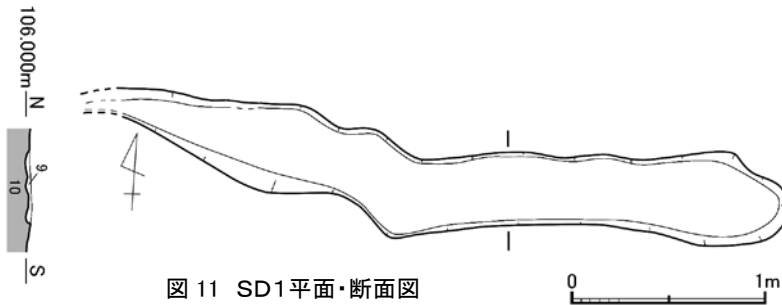


図 11 SD1 平面・断面図

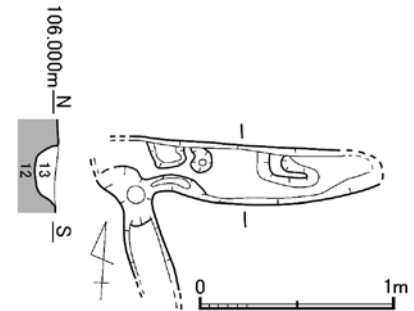


図 12 SD2 平面・断面図

SD 3

調査地の北側に位置し、東西方向に延びる溝である。検出した溝の総延長は 2.16m を測り、幅 0.35m、深さ 0.08m を測る。埋土は単層で、底部は平たい。遺物は灰釉陶器や土師器が出土している。

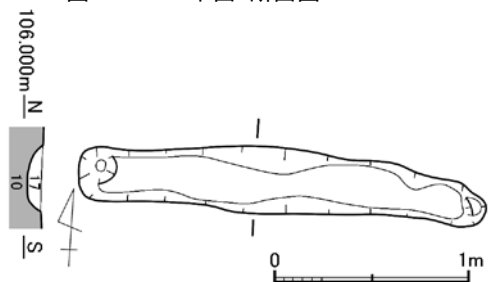


図 13 SD3 平面・断面図

SD 4

調査地の南側に位置し、東西方向に延び、L 字に曲がる溝である。検出した溝の総延長は 1.95m を測り、幅 0.42m、深さ 0.04m を測る。埋土は単層で、底部は平たく SD 5 を切り SP に切られる。遺物は土師器・須恵器等が出土している。

SD 5

調査地の南側に位置し、北西方向に延びる溝である。検出した溝の総延長は 0.6m を測り、幅 0.27m、深さ 0.03m を測る。埋土は単層で、底部は平たく SD 4・SK 5 に切られる。遺物は出土していない。

SD 6

調査地東側に位置し、南北方向に延びる溝である。検出した溝の総延長は 2.76m 以上を測り、幅 0.57m、深さ 0.05m を測る。埋土は単層で、底部は平たく SD 1 に切られる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

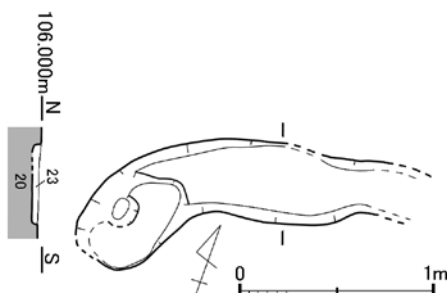


図 14 SD4 平面・断面図

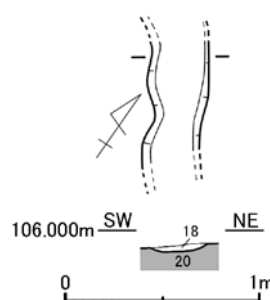


図 15 SD5 平面・断面図

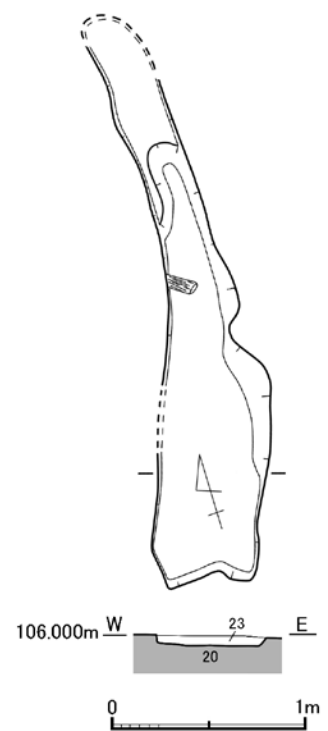


図 16 SD6 平面・断面図

SK 1

調査地の北西に位置し、長辺 1.75m、短辺 0.47m以上の土坑で深さは 0.14mを測る。平面形態は方形で、SK 3に切られている。埋土は単層で、底部は不定である。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK 2

調査地の南西に位置し、長辺 0.85m以上、短辺 0.84mの土坑で深さは 0.12mを測る。平面形態は方形で、SK 5・SP 3に切られている。埋土は単層で、底部は不定である。遺物は灰釉陶器や土師器・須恵器が出土している。

SK 3

調査地の西に位置し、長辺 2.2m、短辺 0.84m以上の土坑で深さは 0.15mを測る。平面形態は不定形で、SK 1を切っている。埋土は単層で、底部は不定である。遺物は土師器・須恵器等が出土している。

SK 4

調査地の北に位置し、長辺 0.84m以上、短辺 0.7mの土坑で深さは 0.09mを測る。平面形態は不定形で、SD 2を切っている。埋土は単層で、底部は平らで角礫が 2点ある。遺物は土師器・須恵器が出土している。

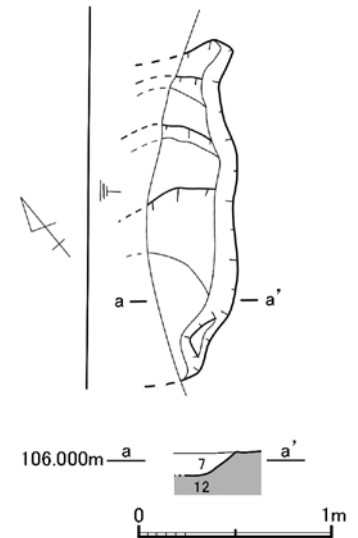


図 17 SK1平面・断面図

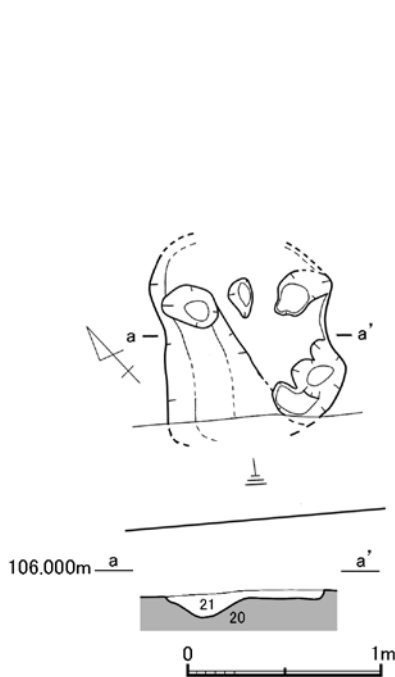


図 18 SK2平面・断面図

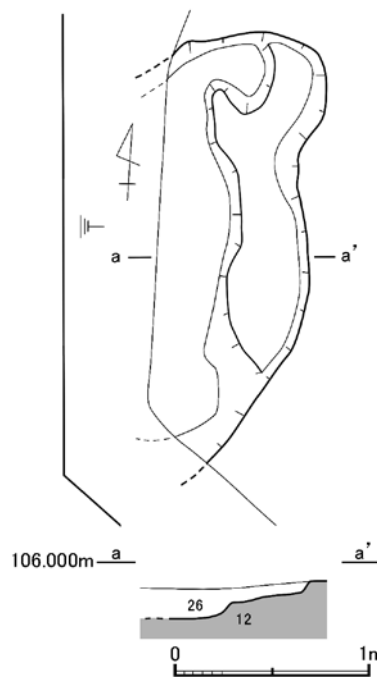


図 19 SK3平面・断面図

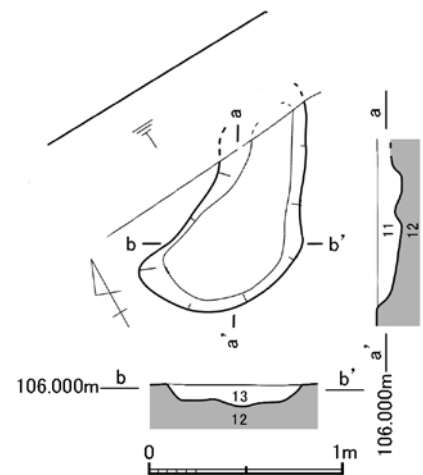


図 20 SK4平面・断面図

SK 5

調査地の南西に位置し、長辺 0.85m、短辺 1.45mの土坑で深さは 0.05mを測る。平面形態は方形で、SK 6・SK 2・SD 5を切り、SP 27・28に切られている。埋土は単層で、底部は不定である。遺物は土師器・須恵器等が出土している。

SK 6

調査地の中央に位置し、長辺 0.55m以上、短辺 0.35mの土坑で深さは 0.12mを測る。平面形態は不定形で、SD 1・SK 5に切られている。埋土は単層で、底部は不定である。遺物は土師器が出土している。

SK 7

調査地の東に位置し、長辺 0.80m、短辺 0.34m以上の土坑で深さは 0.10mを測る。平面形態は不定形である。埋土は単層で、底部は不定である。遺物は灰釉陶器や土師器・須恵器が出土している。

SK 8

調査地の南に位置し、長辺 0.47m、短辺 0.43mの土坑で深さは 0.20mを測る。平面形態は不定形で、SP 33を切っている。埋土は単層で、底部は楕円形である。遺物は出土していない。

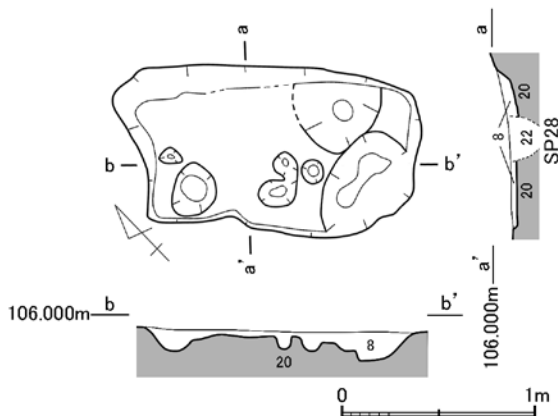


図 21 SK5平面・断面図

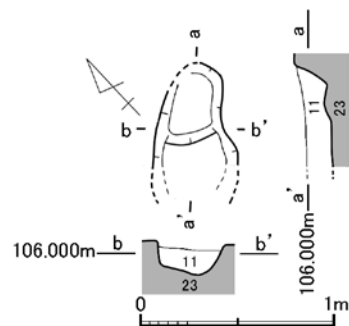


図 22 SK6平面・断面図

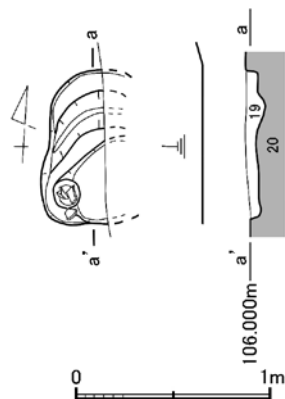


図 23 SK7平面・断面図

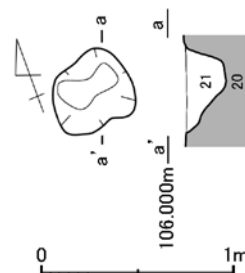


図 24 SK8平面・断面図

S P（柱穴）は34基確認している。規模は幅0.10mから0.54m、深さは0.03mから0.46mである。

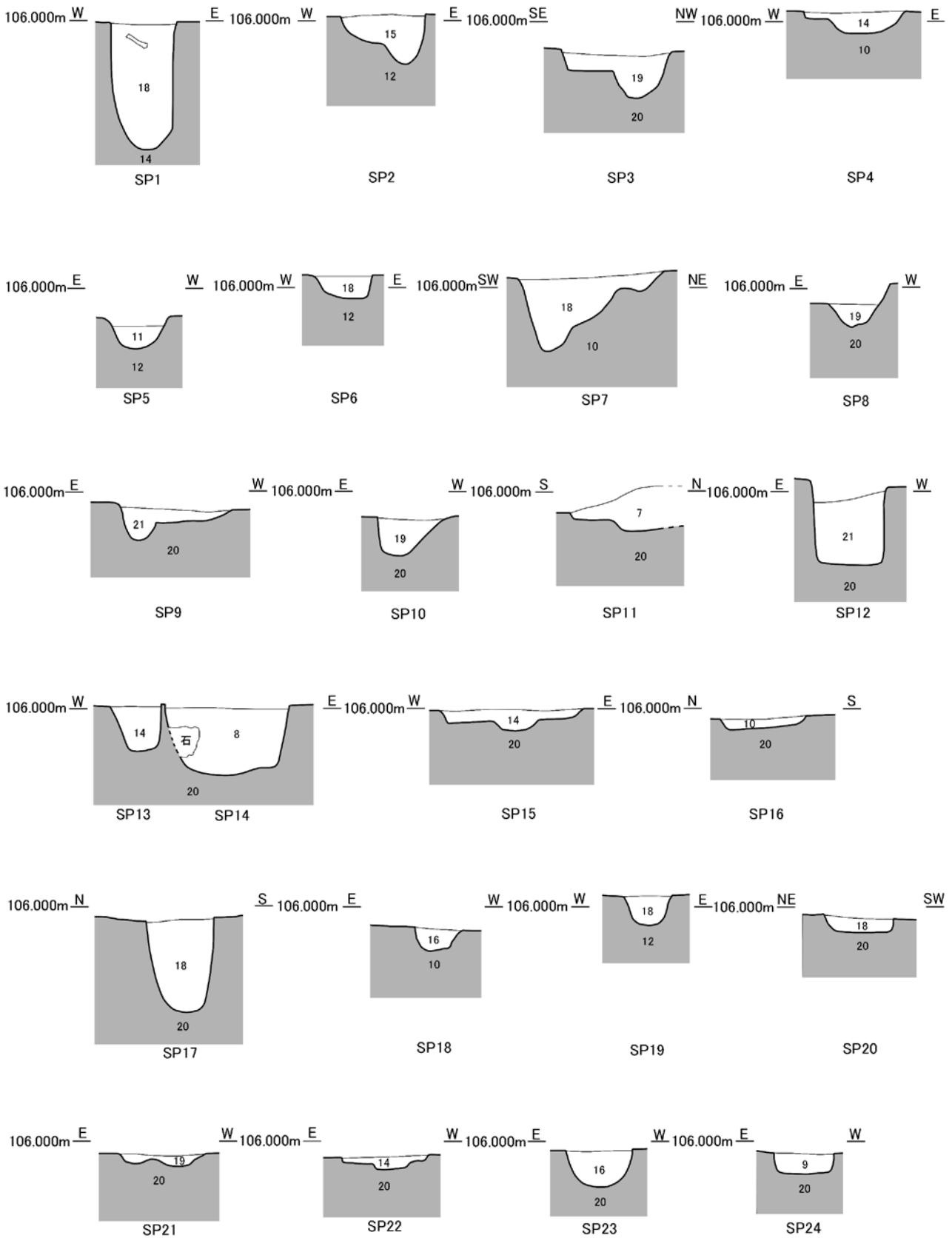


図 25 SP断面図(S=1/20)



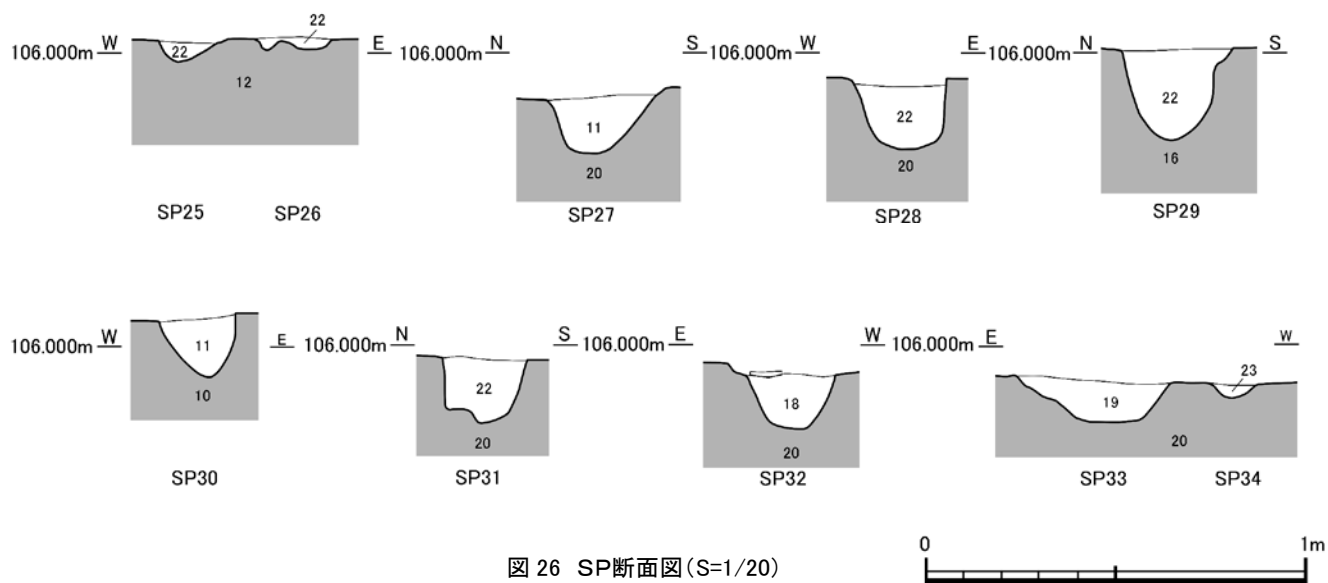


図 26 SP断面図(S=1/20)

表2 SP一覧表

遺構番号	幅 (cm)	深さ (cm)	遺構番号	幅 (cm)	深さ (cm)
SP1	22	46	SP18	16	7
SP2	30	16	SP19	16	10
SP3	38	15	SP20	24	6
SP4	35	8	SP21	30	4
SP5	17	8	SP22	30	4
SP6	18	8	SP23	22	12
SP7	54	26	SP24	21	8
SP8	16	8	SP25	15	4
SP9	39	12	SP26	20	3
SP10	24	13	SP27	30	14
SP11	32 以上	16	SP28	24	16
SP12	25	26	SP29	28	24
SP13	19	15	SP30	20	15
SP14	43	26	SP31	22	16
SP15	50	8	SP32	27	14
SP16	31	4	SP33	40	10
SP17	24	33	SP34	10	3

(2) 遺物

遺物は土師器や須恵器、灰釉陶器その他少数であるが緑釉陶器や白磁が出土している。遺物総点数は624点である。各遺物の詳細は観察表を参照されたい。(図版8の土器番号と合致している。)

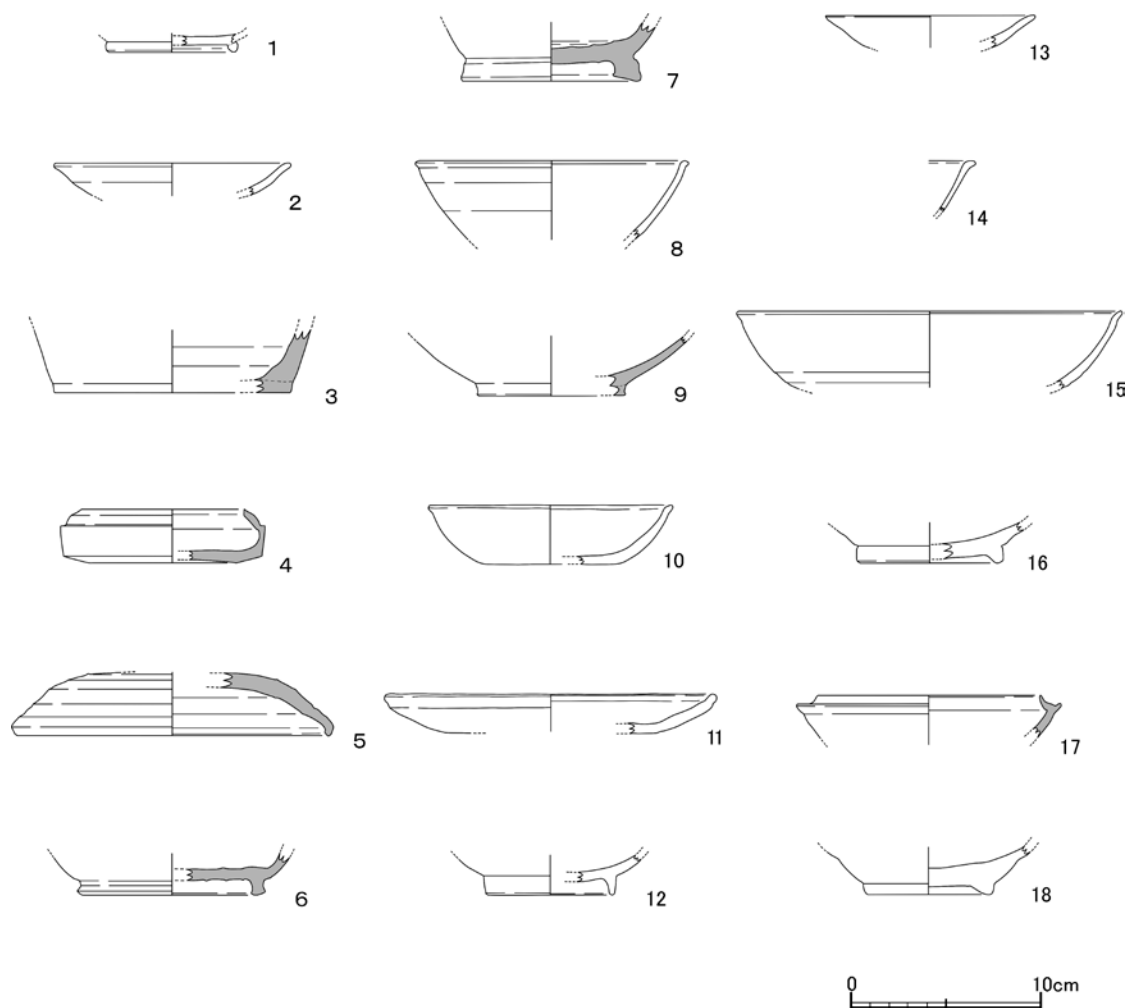


図 27 出土遺物実測図

第3表 遺物観察表

No.	出土遺構	器種	器形	色調			胎土	焼成	調整	法量	備考
				外面	内面	器肉					
1	SD1	灰釉陶器	碗	10YR8/1 灰白色	10YR8/1 灰白色	10YR8/1 灰白色	密	良	回転ナデ	復元底径 6.6 cm 残存高 1.0 cm	反転復元
2	SD3	灰釉陶器	皿	5Y7/1 灰白色	2.5Y7/1 灰白色	2.5Y7/1 灰白色	密	良	回転ナデ	復元口径 12.4 cm 残存高 1.7 cm	内面と口縁端部外面に施釉 反転復元
3	SD4	須恵器	瓶類	N5/灰色 5Y7/1 灰色(底面)	N6/灰色	N7/灰白色	密	良	回転ナデ	復元底径 12.4 cm 残存高 3.3 cm	反転復元
4	SK1	須恵器	合子	2.5Y7/1 灰白色 N4/灰色 10Y5/1 灰色	N6/灰色 N5/灰色	2.5Y7/1 灰白色	密	良	回転ナデ ケズリ	復元口径 8.6 cm 器高 2.8 cm 復元底径 8.8 cm	2次焼成を受ける 反転復元
5	SK3	須恵器	蓋	N5/ 灰色	N5/ 灰色	10Y5/1 灰色	密	良	回転ナデ ケズリ	復元口径 16.4 cm 器高 3.3 cm	火ぶくれあり 反転復元
6	SK3	須恵器	坏	N5/ 灰色	N5/ 灰色	7.5YR6/3 にぶい褐色	密	良	ナデ ヘラ切り	復元口径 9.2 cm 残存高 2.2 cm	反転復元
7	SK3	須恵器	瓶類	10Y5/1 灰色	2.5Y5/1 黄灰色	2.5YR6/2 灰赤色	密 粗粒砂を 少量含む	良	回転ナデ ナデ	底径 9.4 cm 残存高 3.1 cm	反転復元
8	SK3	灰釉陶器	碗	5Y8/1 灰白色	5Y8/1 灰白色	5Y8/1 灰白色	密	良	回転ナデ	復元口径 14.0 cm 残存高 4.1 cm	反転復元
9	SK4	須恵器	碗	5Y6/1 灰色	5Y5/1 灰色	7.5YR6/4 にぶい橙色	密	良	回転ナデ	復元底径 7.7 cm 残存高 3.1 cm	底部に糸切り痕有り 反転復元
10	SK5	土師器	碗	5Y8/1 灰白色	2.5Y8/1 灰白色	5Y8/1 灰白色	密 粗粒砂を 微量含む	良	ナデ	復元口径 12.8 cm 器高 3.1 cm	反転復元
11	SK5	土師器	皿	7.5YR7/4 にぶい橙色	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	密 粗粒砂を 含む	良	ナデ	復元口径 17.2 cm 残存高 2.0 cm	反転復元
12	SK7	灰釉陶器	碗	N8/ 灰白色	N8/ 灰白色	N8/ 灰白色	密	良	ケズリ ナデ	復元底径 6.6 cm 残存高 2.1 cm	外面・高台内面に墨付着 内面に施釉 反転復元
13	側溝掘削	緑釉陶器	皿	7.5Y6/3 オリーブ黄色	7.5Y5/3 灰オリーブ色	2.5Y7/2 灰黄色	密	良	回転ナデ	復元口径 11.0 cm 残存高 1.7 cm	反転復元
14	遺構検出	白磁	碗	5Y7/2 灰白色	5Y7/2 灰白色	5Y8/1 灰白色	密	良	回転ナデ		
15	南側落ち 込み(西側)	灰釉陶器	碗	10YR7/1 灰白色	2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色	密 粗粒砂を 含む	良	回転ナデ 墨多く付着	復元口径 20.4 cm 残存高 4.0 cm	外面に墨付着 反転復元
16	南側落ち 込み(東側)	灰釉陶器	碗	2.5Y8/1 灰白色	2.5Y8/1 灰白色	2.5Y8/1 灰白色	密	良	回転ナデ	復元底径 7.2 cm 残存高 2.1 cm	反転復元
17	南東部 精査	須恵器	坏身	N6/灰色	N6/灰色	N6/灰色	密 粗粒砂を 含む	良	回転ナデ	復元口径 12.4cm 残存高 2.2cm	反転復元
18	盛土	山茶碗	碗	2.5Y8/1 灰白色	2.5Y8/1 灰白色	2.5Y8/1 灰白色	密 細礫少量 含む	良	回転ナデ	底径 6.4cm 残存高 2.5cm	高台に粉殻痕有り 反転復元

第4章 総括

今回検出した遺構の種類は、溝（SD）・土坑（SK）・柱穴（SP）である。遺構から今回の調査をみると、各遺構に切り合いがあり、時期的に重複していると考えられる。

遺構の切り合いは、SD 5の次にSD 4そしてSP 8・9・10が続く。SD 5はSK 5にも切られ、次にSP 27・28が続く。SK 5は、SK 2・SK 6・SP 12を切っている。SK 6はSD 1に切られ、SD 1はSP 1・SD 6を切り、SP 30に切られる。SD 2はSK 4とSP 2に切られる。柱穴からは数少ないが遺物が出土しており、9世紀後半以前の古代の柱穴もあるようである。

調査地の南側は、9世紀後半までの土器が多く入った土で整地されている。この整地層には炭と焼土がまぎれ合っている場所が調査地の西側に存在した。これらの整地層を剥がすと、下層から多くの遺構を検出している。

検出した遺構にも切り合いがあり、SD 5、SK 2、SK 6が切り合いから古くなると考えられる。遺構から見るとSK 2、SD 5があり、次にSK 5ができ、その後、整地されSD 1やSP（柱穴）が存在する状態である。



図 28 周辺調査状況図

出土遺物として、土師器や須恵器のほか、灰釉陶器、少数ではあるが白磁や緑釉陶器が出土している。遺物から今回の調査をみると、7世紀から10世紀までと時期幅を広く持っていることがわかる。調査の過程で掘削していった堆積層から山茶碗が出土し、調査地南側の整地層のなかには9世紀後半の灰釉陶器が出土している。

SK1やSK2は灰釉陶器が出土しており9世紀代と考えられる。SK3からは灰釉陶器の出土は無く須恵器が出土しているため、今回調査した遺構のなかでは古い遺構になると考えられる。SK4からは糸切り高台の須恵器が出土し、SK5からは灰釉陶器と考えられる体部が出土している。SK6からは土師器の体部細片が出土しているのみである。SK7からは灰釉陶器が出土している。SD1・3・4からは、灰釉陶器が出土し、SD2・6からは土師器や須恵器が出土している。

SK1から出土した合子と調査地南側の落ち込みの中に堆積していた炭等と共に出土した合子が同一個体であると考えられ、南側の落ち込みとSK1の埋設時期が同じと考えられる。

遺構と遺物をまとめて今回の調査をみると、山茶碗が隆盛した13世紀には遺跡自体が埋没していたと考えられ、9世紀代後半に7・8世紀段階にあった遺構を壊し、地面を平坦にしてSD1・SD3や柱穴で建物を建て、集落を形成していたと考えられる。8世紀代も同様にSK3やSD2・6、その他柱穴を用いて掘立柱建物を建て、集落を形成していたと考えられる。

今回の調査により、以前調査した、北側の調査地の続きで今回の調査地にも遺構が広がっていることが判明したほか、調査地西側は落ち込みが広がることもわかった。今後の調査により、大円寺遺跡の全容が解明されることを望む。

図 版



調査前状況
(西から)



重機掘削状況
(西から)



作業風景
(北西から)



遺構検出状況
(北西から)



遺構完掘状況
(南から)



遺構完掘状況
(西から)



遺構完掘状況
(北から)



南壁土層堆積状況
(北から)



S D 1 土層断面
(西から)



SD 2 土層断面
(西から)



SD 3 土層断面
(東から)



SD 5 土層断面
(南東から)



S D 6 土層断面
(南から)



S K 1 土層断面
(北東から)



S K 2 土層断面
(北東から)



S K 3 土層断面
(南東から)



S K 4 土層断面
(南西から)



S K 5 土層断面
(南から)



S K 6 土層断面
(東から)



S K 7 土層断面
(西から)



S K 8 土層断面
(北西から)



出土遺物 1



出土遺物 2



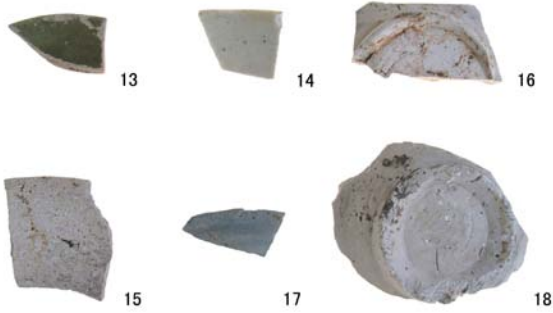
出土遺物 3



出土遺物 4



出土遺物 5



出土遺物 6

報 告 書 抄 録

ふりがな	だいえんじいせきだい9じちようさほうこくしょ						
書名	大円寺遺跡第9次調査報告書						
副書名							
巻次							
シリーズ名	長浜市埋蔵文化財調査資料						
シリーズ番号	第141集						
編著者名	牛谷好伸						
編集機関	長浜市教育委員会						
所在地	〒526-8501 滋賀県長浜市高田町12-34 TEL0749-62-4111						
発行年月日	西暦 2013 年 3 月						
所収遺跡	所在地	市コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
大円寺遺跡 (9次)	滋賀県長浜市 高月町高月	25-203	35° 28' 11"	136° 14' 19"	平成24年12月5日～ 平成25年1月10日	35 m ²	防火水槽設置 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
大円寺遺跡	集落跡 社寺跡	古墳時代 古代 中世	溝 土坑 柱穴		土師器 須恵器 緑釉陶器 灰釉陶器		

2013 年 3 月 31 日

長浜市埋蔵文化財調査資料 第 141 集
大円寺遺跡 第 9 次調査報告書

編 集 滋賀県長浜市教育委員会

発 行 教育総務課 文化財保護センター

滋賀県長浜市東上坂町 981

TEL0749-64-0395 FAX0749-62-6357

有限会社 おぎした印刷